

ご挨拶

目標に向かって 行動するまちづくり

只見町長 渡部 勇夫



明けましておめでとうございます。令和七年の新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。町民の皆様におかれましては、つつがなく輝かしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。昨年は、国際的にみれば、ロシアのウクライナ侵攻は開始から二年を優に経過し、戦闘に参加する近隣国も現れました。

また、オリンピックの他バレーボール、野球など様々なスポーツの国際大会が開催され、人々に感動をもたらしました。

国内では、元旦に発生した能登半島地震をはじめ、地震や豪雨等災害が各地で発生しました。

一方、円安の影響もあり、外国人観光客の増加など観光産業がコロナの五類移行後回復傾向にあります。

そうした地域が活気を取り戻そうとする中、人口減少会議では、二〇五〇年までの消滅可能性自治体を公表し、只見町を含む会津地方の多くがそれに該当するとされました。

只見町においては、十月には朝日診療所の常勤医が不在となり町民の皆様に変なご心配をおかけしましたが、福島県をはじめ関係各位のご支援をいただきながら、十一月から城大祐先生を所長としてお迎えし、新たな体制をスタートさせることができました。

また、只見ユネスコエコパーク登録十周年を迎え、記念事業において、ネイチャーポジティブを宣言すると共に、地域の自然や文化を守りながら活かす

取組を加速させることを確認したところであります。

そして、私事になりますが、昨年十一月の町長選挙におきまして、町民の皆様方をはじめ多くの方々から温かいご支援を賜り当選の栄に浴し二期目の町政を担わせていただくこととなりました。

さて、コロナ対策をはじめ、一期四年の中で、様々な課題に対応して参りましたが、消滅可能性の懸念からどうすれば存続していけるか、只見町の将来・生き残りのために、「目標に向かって行動するまちづくり」を念頭に、三つの目標をもって行動してまいります。

そしてそれらの目標達成に近づくためには二つの基本姿勢を意識する必要があります。

目標の一つ目は、「安心、安全なまちづくり」です。

医療や介護体制の充実、防災体制の整備、防犯活動の推進、交通の利便性向上、日常生活支援、財産管理等の意思決定支援等です。

二つ目は、「町内産業の持続的な振興と担い手確保」です。

町内で日々懸命に営んでおられる、農業、商業、製造業、建設業、六次化産業等、全産業にわたって事業活動を継続していくことができる環境整備と支援、そしてそのための担い手確保対策は町が存続していくために大切なことだと思っています。

三つ目は、「人財の育成と確保」です。

これは二つ目の目標に繋がってきます。今の時代を担う人財の確保と人財育成・将来の地域リーダーの育成は、常に大切なことだと思えます。

次に基本姿勢です。一つ目は、「国際的に共感を得られる態度」です。

「人と自然の共生」を掲げ、ユネスコエコパークに登録されている只見町は、「保護・保全」「地域振興」「学術調査研究・人財育成」の目標に向かって取り組むにあたり、この姿勢を意識する必要があります。

もはや町内や国内のみではなく、国際的に共感してもらええる態度こそ大切です。

二つ目は、「目標の具体化のための建設的な態度」です。

目標を定めても、具体化するのには正直難しいことがあります。しかし具体化して考えていかないと前に進みません。そのためには皆で関心を高め、建設的な態度をもってお互い接していかないと、力を合わせようという機運が生まれません。

年頭にあたり所信の一端を申し上げましたが、改めまして町民の皆様、並びに町議会のご理解をいただきながら、何ひとつ成し得ません。今後ともお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が町民の皆様にとりまして良き年でありますようご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます、ご挨拶といたします。

新年の

新年を迎えて



只見町議会議長 佐藤 孝義

あけましておめでとうございます。年頭にあたり只見町議会を代表し、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。町民の皆さまにおかれましては、令和七年の新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃より議会活動に対する深いご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

昨年は町議会議員の任期満了により、新たな議会体制がスタートした年でありました。私は四月会議において、議員各位の推挙をいただき、議長という大役を仰せつかりました。微力ではありますが、町議会の代表者としてその責任の重さを実感しながら、日々奔走するとともに、只見町発展のため引き続き努力してまいりたいと決意を新たにしております。

さて、昨年元旦に、石川県能登地方を中心とする大地震が発生し、その復興途上の九月には奥能登豪雨が発生するなど、能登地方に甚大な被害が発生しました。生活再建への歩みを進めている中で、自然の理不尽さに胸が痛み、一日も早い復興を心から願ってやみません。

日本は「災害大国」であり、自然災害がいつどこで起きても不思議ではありません。特に近年は気候変動に伴う自然災害の増加が懸念されており、改めて防災・減災の充実強化に

努力してまいりたいと考えております。

また、昨年来、エネルギーや食料品価格などの物価高騰は、今もなお住民生活や経済活動に大きな影響をもたらしており、日本の経済状況はもとより地方経済も大変厳しい状況下にあります。さらに、東京一極集中、地方では少子・高齢化、人口減少という大きな社会構造の問題を抱えており、このような厳しい状況の中でも地域に即した特色あるまちづくりが求められております。

本町におきましては、令和八年度からのまちづくりの指針となる「第八次只見町振興計画」を策定する重要な年にあたります。

先人から受け継がれた自然や文化を活かし、それらを持続可能な形での利活用を通し、社会経済の発展につなげていくため、これからの十年、さらにはその先を見据え、町勢の発展につながるより良い計画となるよう、課題や目標を共有し議論を重ねてまいりたいと考えております。

また、国道二八九号・八十里越道路の開通も目前に迫っており、当町においては地域生活圏が大きく変わることを期待しております。観光客や交流人口の増加に伴う受け入れ対策はもとより、町内国道の狭隘区間の整備など、待ったなしの取り組みが必要と考えています。さらには、町経済の活性化、

子育て支援や教育環境の充実、医療・福祉をはじめ安心して暮らせる環境づくりなど、只見町に住んでよかったと実感できるまちづくりを目指し、町当局と活発な議論を重ね課題の克服に努めて参ります。

議会は町民に代わる最高意思決定機関という基本的な役割に加え、行政を監視、牽制する役割と使命があります。今後も町民の皆様との繋がりを大切にし、議会報告会や一般会議などを通じて皆様の声に耳を傾けるとともに、いただいたご意見をしっかりと受け止め、その声の一つでも多く実現できるよう、議員一同、精一杯努力してまいりますので、皆様のなご一層のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

結びに、新しい年が町民の皆様にとりまして幸せで実り多い一年となりますよう、心よりご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

